

「働き方改革通信：Smile」は、“先生の Happy が子どもの笑顔をつくる”を取組姿勢とした「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」の進捗（達成目標の現状等）や各学校での取組を共有し、更なる取組の推進・充実につなげるために発行しています。

**Topic**

働き方改革を支える！ 横浜市教育委員会の取組

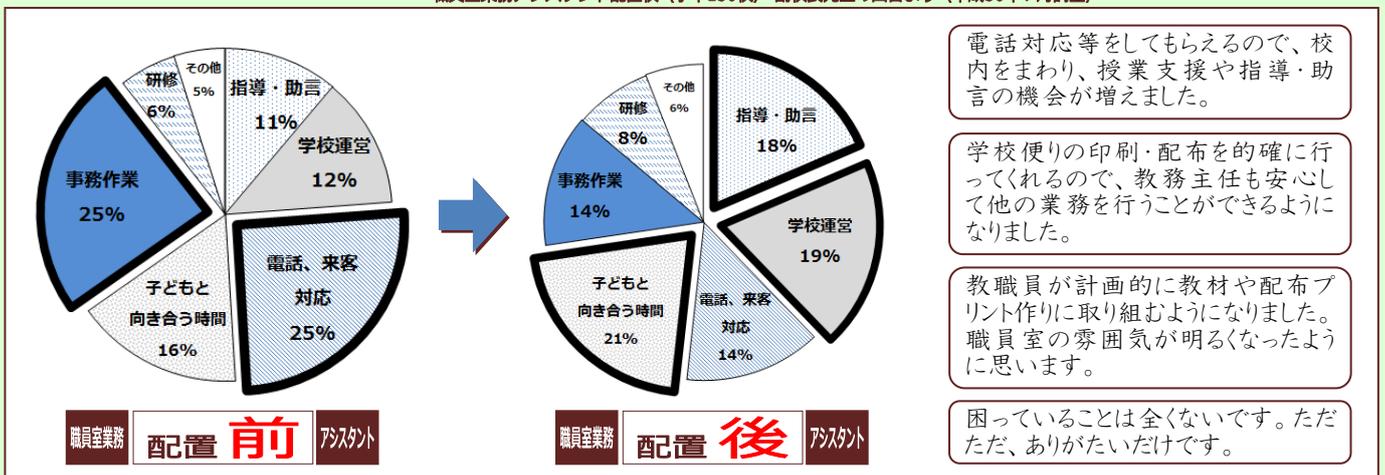
## ①-1 プラス50校！ 職員室業務アシスタント

戦略3- (2)-① P.27

職員室における事務的な業務（印刷や電話対応など）をサポートする職員室業務アシスタントは、どの配置校からも高い評価をいただいています。この度、働き方改革をより一層推進すべく、異例ではありますが、厳しい財政状況の中から予算を捻出し、新たに50校に配置することとしました。これで、H30.4配置の130校に加え、計180校への配置となります。配置校同士での情報交換等をもとに効果的な活用を進め、勤務の質の向上や勤務時間縮減にもつなげてほしいものです。

### アンケート結果より ▶▶▶▶ 職員室業務アシスタント配置による業務内容の割合の変化

～職員室業務アシスタント配置校（小中130校） 副校長先生の回答より（平成30年7月調査）～



電話対応等をしてもらえるので、校内をまわり、授業支援や指導・助言の機会が増えました。

学校便りの印刷・配布を的確に行ってくれるので、教務主任も安心して他の業務を行うことができるようになりました。

教職員が計画的に教材や配布プリント作りに取り組むようになりました。職員室の雰囲気明るくなったように思います。

困っていることは全くないです。ただただ、ありがたいだけです。

**Topic**

働き方改革を支える！ 横浜市教育委員会の取組

## ①-2 15時間起きていると酒気帯び運転レベル!?

戦略4- (2)-② P.37

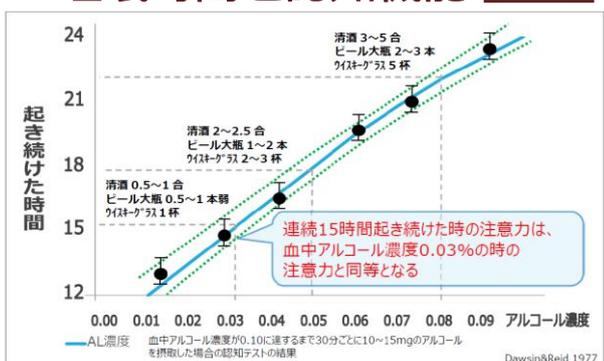


8月、東京メンタルヘルス株式会社から講師を招き、健康管理研修（教職員労務課主催）が開かれました。今回のテーマは“睡眠”です。普段、睡眠について考えることはあまりないのかもしれませんが。研修資料の印象的なデータと参加者の声をお伝えします。



### 睡眠時間と認知機能

研修会資料より



15時間起きていると、血中アルコール濃度0.03%と同レベルまで認知機能が落ちると言われています。酔った状態で良いパフォーマンス…出せませんよね。



研修の様子

研修はとても良かったが、根本的に仕事量が減らないと睡眠確保につながらないと思う。

睡眠について考えるという、自分と向き合う内容の研修は、夏休みならではの良い企画だと思った。

睡眠についてゆっくり考える機会がなかったのでも新鮮に感じた。座学だけでなくリラクゼーションも良かった。

自分の生活を見直す良いきっかけになった。少しずつ実践していきたい。

今回の研修には、管理職や教諭、養護教諭、事務職員など98名（2回合計）が参加しました。

旭小学校（鶴見区）では、右の手紙のように教職員の働き方改革に向けた取組として、留守番電話の設定とともに、4年生以上を対象とし、始業前に行っていた特設クラブの活動を行わないこととしました。手紙の下段にもあるように、この判断には大変難しいものがあつたようです。

この通信をお読みになる先生方にも、「そこは違うんじゃないか」とお思いの方もおられるかもしれません。

朝練に関わっていた先生に聞いてみました。



**A先生（7年目：初任からバスケット担当：中高大とバスケ部）**

正直、自分はバスケットボール経験者なので、少し残念な気持ちもありますが、朝の時間をクラスのために使え、余裕をもって授業に臨めるようになりました。毎朝、教室で子どもたちを出迎えることができることも大きいです。



**B先生（4年目：初任からサッカー担当）**

校長先生が今まで当たり前だった朝練に対して、一度立ち止まってその価値を考えようと投げかけてくださったことが大きかったです。そして、保護者へのお手紙もあり、子どもや保護者から疑問の声はあがっていません。

運動やスポーツには大きな価値があります。頑張っている先生方もたくさんいます。その一方で、今の取組を見つめ、その価値を再確認しようとする姿勢も大切です。

平成30年6月1日

横浜市立旭小学校  
校長 加藤 和之

「教職員の働き方改革」に向けた本校の取組について

初夏の風に肌も汗ばむ頃となりました。皆様には、ますますご清栄のことと存じます。日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、先日の「学校説明会」でもお話しした通り、現在教職員の勤務実態が問題となっており、市教育委員会や市PTA連絡協議会から「教職員の働き方改革の推進についてのお願い」が保護者、地域の皆様向けに出されたところで、（学校説明会の資料をご覧ください。）そして、そこでも書かれているように、教職員の長時間労働の軽減が大きな課題になっています。（教職員の勤務時間 8時15分～16時45分）

本校の教職員の勤務実態を調べたところ、時間外勤務が月80時間を超えている教職員の割合が、市の調査を大きく上回るという実態がありました。現在、業務内容の見直しや、効率化を検討しているところです。また、市教育委員会が策定しました「教職員の働き方改革プラン」にもとづき、次のように時間外勤務の削減のための取組を進めたいと考えました。

1 留守番電話の設定  
通常、電話対応を **午後6時まで**とさせていただきます。（時間が過ぎると、音声による案内が流れます。録音機能はありません。）  
※6時より前から対応しており、引き続き対応が必要だと学校が判断した案件がある場合には、留守番電話の設定をしません。

2 特設クラブ（サッカー・バスケットボール）を実施しない  
4年生以上の希望者を対象に実施している「特設クラブ」（朝7時40分～）を実施しないこととします。始業前の時間は、学級の子どもたちを迎える準備をする大切な時間です。教職員が心に余裕をもって子どもたちを迎えられるようにしたいと考えています。

「特設クラブ」は、楽しみにしているものもあるので難しい判断でしたが、ご説明した経緯や教職員の勤務実態などから総合的に判断し、今回の決定に至りました。こうした「働き方改革」に向けた取組が、授業内容の更なる充実やきめ細かい指導につながるよう、教職員一同引き続き努力していく所存です。教職員が心身ともに健康で生き生きと働き、子どもとしっかりと向き合うとともに、授業準備などに十分な時間をかけられるようにしたいと考えています。

皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

このテーマ **本気** で考えてみませんか ICカード打刻編

働き方改革の推進に明確な正解はないのかもしれませんが、このコーナーでは、みんなで考えるきっかけとなるようなテーマを取り上げていきます。今回は出退勤時の「打刻タッチ」について考えます。

勤務時間実績は…本当なの？

タッチしてから  
仕事してますよ…

土日出勤しても  
タッチしません…

100時間超えると  
指導が入るので…

本当はきちんと  
入れたいんだけど…

これらの言葉は、ある区の働き方に関する研修で聞かれた言葉です。別の区の研修でこの話をすると、「そうそう」とうなずく人もいました。一部のご意見かもしれませんが、このことを皆さんはどう考えますか？ 勤務時間を記録していくことの意義は何でしょうか。

世の中

学校の先生は忙しいの？  
どれくらい残業しているの？

忙しすぎます！  
もっと人を増やしてください！

学校

今まで、「学校は忙しい」と訴えても、その根拠（実態）を示すことには難しいものがありました。しかし、今回初めて、客観的な数値として勤務実態が示され、具体的な改善策を考えられるようになったのです。また、自分自身どれだけ働いているのか、実際の数字を見て、初めて「意識した」人も多いと思います。さあ皆さん、勤務時間の記録をどう考え、どう向かっていきますか？

**GO** 出退勤の打刻は実績通りに！ 真実に“タッチ”!!

## (1) 「教職員の働き方改革プラン」達成目標との比較・推移 (平成30年9月5日時点)

項目	目標	平成30年8月実績			
		平均	小学校	中学校	特別支援学校
時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合	0%	1.5% 前月比 -11.3	0.1% 前月比 -2.6	4.8% 前月比 -31.4	0.0% 前月比 -0.2
19 時までに退勤する教職員の割合	70%以上	92.9% 前月比 +17.7	93.9% 前月比 +18.9	89.9% 前月比 +17.3	97.2% 前月比 +6.8

※退勤管理を導入した小・中・義務・特支の教員について、ICカード等による記録から機械的に算出した集計結果。(以下、同様)



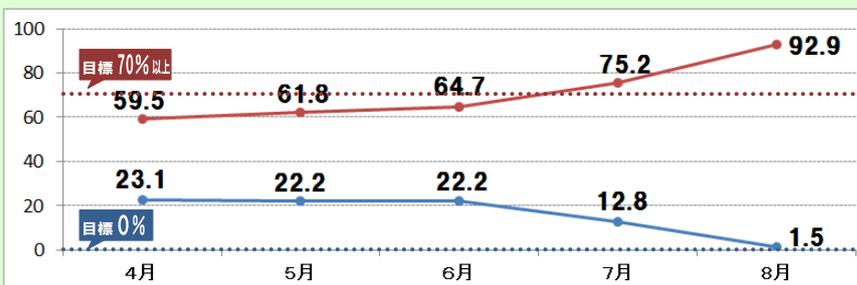
夏休みがありましたので、この値は当然なのかもしれません。一方、「19時までに退勤」は100%に近くなるかと思っただけに、個の業務内容や業務量に注視する必要がありそうですね。

### 達成目標に対する現状値

やはり夏休みや学校閉庁日の影響は大きく、二つの目標ともに、これまでで最も良い値となりました！

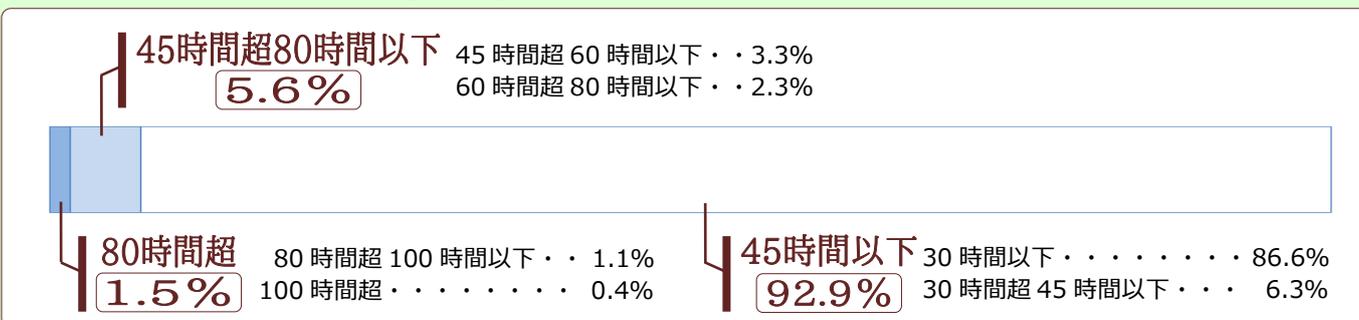
**青線** 時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合

**赤線** 19 時までに退勤する教職員の割合



## (2) 時間外勤務 (平成30年8月) の詳細

### ◇時間外勤務の割合 (平均)



### ◇時間外勤務の割合 (校種別割合)

月あたり時間外勤務	100時間超	80時間超 100時間以下	小計 (80時間超)	60時間超 80時間以下	45時間超 60時間以下	小計 (45時間以下)	30時間超 45時間以下	30時間以下
小学校	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	99.4%	2.6%	96.8%
中学校	1.3%	3.5%	4.8%	7.4%	9.9%	77.9%	14.9%	63.0%
特別支援学校	0%	0%	0%	0.1%	0.3%	99.6%	1.6%	98.0%
平均	0.4%	1.1%	1.5%	2.3%	3.3%	92.9%	6.3%	86.6%



9月には運動会や成績処理を行う学校も多いと思います。一方で、9~11月に「フレックスタイム」の試行も始まっています。教職員一人ひとりの事情を理解し合い、少しずつ気持ちを分かち合う集団でありたいものです。“シェアとケア”働き方改革で大切にしたい姿勢でありアクションです。

※本資料の数値については、項目ごとに四捨五入により端数処理を行っているため、合計と内訳の和とが一致しない場合があります。